

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人 共和会		
事業所名	広瀬の郷 いきいきユニット		
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	平成26年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

屋内にいながら常に四季を感じられる開放感が自慢です。全居室にエアコン、トイレ、洗面化粧台、大容量の収納スペース、また万一に備えスプリンクラーを完備し、年中快適安全に過ごして頂けます。多くの時間を共に過ごす共用ホールは広く天井が高く、冬は床暖房でとても快適です。ご面会は応接コーナーもご用意しております。  
当法人は同じ敷地にいくつかの事業所があり、交流と散歩に力を入れております。認知症状はその人の個性ととらえ、出番と選択の機会を大切に、笑い声の絶えない雰囲気を目指しております。お気軽にご見学下さいませよう、お待ちしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年7月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「広瀬の郷」は、特養に加えて在宅系サービスを提供する法人が運営している。広瀬地区住民の高齢者福祉の拠り所となっており、多くの町内会・民生委員・教育施設・地域行事等と深く関わりあっている。ホームの職員は事業所理念の徹底、身体拘束せず各々の尊厳と自立化を支援するケアに向けて意識が高い。都市部の施設と比較すれば交通の不便さは免れないが、豊かな自然に恵まれ、設備が整った居住スペースや提携出来る事業所群の集中は大きな魅力であり、入居者とその家族等とのコミュニケーションを深めて活力ある運営を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 広瀬の郷)「ユニット名 いきいき」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年も全職員で振り返りを行い、変更か維持かを検討した。新任職員にはそのユニットの責任者が説明している。理念は目立つ場所に掲示している。	今年3月の職員会議で理念を話し合い、昨年どおりと決めた。また職員も個々に目標を掲げて名前入りで居間に掲示し、入居者・家族に分かる形で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣学校の行事参加。ボランティア、床やの来訪、障害者施設へ訪問。隣接事業所にボランティア来訪時に参加。運営推進会議の委員と昼食会、避難訓練を実施。施設の祭りに招待。	特養ホームを核に在宅系サービスを提供する事業所が揃っていることもあり、近隣住民・学童・幼児・ボランティア等と施設行事・避難訓練・慰問等多彩なつきあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々と勉強会や事例報告を実施している。昼食会を通して、利用者や職員の対応を見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要望や意見が聞かれた際は、再考し取り入れるように努めている。	町内会長7名・民生委員4名・地域包括職員の構成で、昨年度は4月中止で年5回開催し、出席率も高い。しかし目標に掲げた家族の参加をお願いしたが断われ、実現していない。	家族の会議参加を目標に掲げたが、必要性への疑問や日程が合わない等で未遂となっており、テーマ設定・他行事と絡める等更に工夫することで家族の参加実現を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要その都度の相談のみになっている。	市の企画する研修会等に出席している。各種相談等は地域包括支援センターと対応することが多く、この1～2年、市・区の担当者へ相談するケースはなく推移している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が中心となって定期的に内部研修を実施している。他の職員も外部研修に参加し、伝達研修を実施している。玄関も日中は施錠せず、センサーで対応している。	研修でのテーマ設定、入居者・外出傾向のある方への目配り等、事業所・職員は身体拘束とならないケア実践に取り組んでいる。また運営推進会議でも本テーマを説明するなど、外部への広がりにも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施している。外部研修に参加し、伝達研修を実施している。特に言葉遣いは乱れやすいため、お互いに指摘し合う雰囲気づくりを目指している。入浴時に痣の有無を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が中心となって定期的に内部研修を実施しているが活用実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に際して管理者が説明し、いったん家族に書類を持ち帰って確認してもらい、その上でもう一度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに意見箱を設置し、匿名性にも配慮している。相談機関や施設の取り扱い方法について玄関に掲示している。	入居の際に月一回は家族訪問をお願いしており、家族の訪問は少なくない。しかし家族会組織がないためか運営への要望は少なく、職員を経由して汲み上げられる形となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に決まった話し合いの場はないが、内容によっては管理者が意見を集約し話し合いを行っている。	月初めに2時間程度の職員検討会を行って円滑に運営する仕組みであり、その他日勤者・夜勤者の引き継ぎや管理者への報告・相談等で汲み取る形となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度のもと、法人全体で一体的に運用されている。半年に1回面談を実施し、振り返りと今後の目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の内部に取り組んでいる。外部研修は参加した職員が必ず伝達研修している。法人合同での研修も年2回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年西部地区の施設が集まりスポーツ大会、懇親会が実施されている。他施設との交換研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、入所先の計画作成担当者が中心になり構築されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、入所先の計画作成担当者が中心になり構築されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、事務長、看護師、栄養士も加わり、より専門的な意見のもと検討している。昨年デイサービスを定期的にご利用していた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において、利用者ごとの役割や出番が確保されるよう、検討会を行っている。写真として家族に毎月送付している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や帰省、行事参加を呼びかけている。毎月1回生活の様子を記載した手紙を送り、本人の思いを伝えたり、代弁している。面会時間においても、基本的に制限を設けず対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙等可能な限り継続してもらえるよう行っていきたい。隣接している特養に夫が入所しており、定期的に会いに行っている。地域の利用者の友人がたまに会いに来る。	法人は特養ホームを軸に在宅系サービスが揃った広瀬地区高齢者福祉の中核的役割を担っており、慰問ボランティア・教育施設との交流・地域行事参加等馴染みの人・場との関係継続支援が確立している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席位置の見直し、必要に応じて職員が間を取り持ったりしている。ユニット間の行き来も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特養に移った利用者に会いにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや観察の他に、毎月1回検討会を行い、ケアプランへの反映と情報共有に努めている。また、計画作成担当者は家族面会時に対面での話し合いを行い、意思疎通に努めている。	日常の関わりの中から、本人の希望に応じて雑誌・新聞・ビデオなど興味の持てるものを引出し、個別ケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も家族から本人に関する様々なことを聞くようにし、その情報を全職員が共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン以外にも、独自の内部研修会を通して、定期的に検討会を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員間で検討会を行っている。また、計画作成担当者は面会時に必ず対面での話し合いを持ち、情報共有に努めている。	月初めに行っている職員検討会を実施し、本人・家族への聞き取りとモニタリングを行っている。3ヵ月毎に介護計画を見直し、対面もしくは書面で家族の合意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各介護記録、必要に応じて専用ノートに記載し、日勤帯と夜勤者間で引継ぎし合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は外部デイサービスを利用していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館、ボランティアの来訪、近隣施設への訪問を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院の希望を確認している。施設のかかりつけ病院の場合は、定期、随時外来と施設の送迎で受診している。	通院には職員が付き添い、薬を届けてくれるメリットもあって入居者は施設と提携のかかりつけ医を受診している。また眼科・泌尿器科等の専門医受診の同行は家族がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師、係りつけ病院、薬局と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心になって行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が施設の方針を説明してから入所していただいている。また、介護の重度化が進んできた際も説明し、ご家族の意向を確認してる。	医療連携が困難な地域事情もあり、「終末期ケアは病院か特養が担う」と入居者家族に説明し理解を得ている。しかし地域密着ケア重視の動きや家族要望の変化も勘案して法人内検討を深めることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画のもと定期的な内部研修を実践している。今年AEDを設置し研修も行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施し、うち1回は消防署立会いで行っている。他に、ご利用者の誘導のみを省いた確認訓練(導線や誘導方法の確認等)を実施。地域住民の方も参加している。	近隣住民への周知と参加案内も行って4~5人の住民参加が得られ、夜間対応避難訓練を実施している。特徴として隣接の特養スタッフとの連携を入れた、実践的な計画になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々職員相互で注意し合う雰囲気づくりに努めている。定期的に会議の場でも取り上げている。	苗字呼びとせず名前呼びにして受け入れられ定着している。誇りやプライバシー保護のため職員同士の会話でも名指しはしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションに注意すると共に、ケアプラン、独自の内部研修会を通して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン以外にも、独自の内部研修会を通して取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出し入れ、選びやすいように整頓し、祭りや敬老会、誕生会等は、積極的に化粧や服装の支援を行っている。パーマや毛染めの希望を聞き行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食の聞き取り、買い物同行、調理や盛り付け、配膳下膳、飾り付けの工夫と、普段と違った雰囲気になるように実践している。1人が就寝時にノンアルコールビールを飲用。	朝食とご飯炊きは職員が行い、他は特養の厨房で作る形にした結果、入居者と接する時間が増えサービスが向上した。外食やおやつ手作り等食事を楽しみを創るよう工夫を重ねている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が毎日の献立を決め、代替え品や補食等も相談しながら提供している。また、食事に関する細やかな申し送り等は、担当者を決め毎月掲示している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には必ず全利用者の口腔ケア、義歯洗浄を行っている。場合によっては専用液とガーゼで口腔洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過剰介護にならないように毎月検討会を行っている。排泄用品においても失禁程度に合わせたものを決め、排泄チェックも細かく行っている。排泄に関する細やかな申し送り等の把握は担当を決めている。	排泄パターンに添った最適の自立支援に努めている。入居者の半分は誘導することで失敗は殆どない。就寝帯のトイレ誘導か安眠優先かは本人の状況を考えて選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、医師と相談し本人に合った下剤を使用。水分、食事摂取量、排便有無を記入し、繊維質の多いおやつを提供、散歩にも力を入れている。下剤は最終手段になるように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者に対しては、その希望通りに対応している。逆に入浴したくない利用者にも、週2回以上入るように援助している。音楽やラジオを聞きながら入浴することもある。	本人の希望に応えることにしているが、入浴を嫌う傾向が強く、最低でも週2回は入浴するよう支援している。お湯は入浴の都度入れ替え、足湯マッサージも加えて入浴に楽しみを作る様努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に合わせた支援を行っており、昼夜逆転傾向にある方には、日中は活動してもらえるようにしている。低反発マットも選択している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとにファイリングし、名称、用量、副作用等いつでも確認できる。誤薬防止に毎朝二重チェックを実施し、誤薬の際には薬局に昼夜相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、趣味や役割の支援、日々の余暇活動等ケアプランに反映している。定期的に検討の場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞いたり家族に参加を促したりして、機会を多く持てるように努めている。リフト付きの車も購入した。	リフト付き車両を増配備したことで春頃は外出機会が多かったが、職員の病気休職で夏場は減っている。休職職員の復帰を待って外出する機会を増やしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する方には、ご家族了承のもと所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、投函の代行を行っていたが、現在は日課となっている方はいない。1人携帯電話を持っているが、自らかけることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃、季節ごとの掲示物の制作を利用者と一緒に行っている。冷、暖房は温度計、湿度計で判断し、全居室に加湿器も用意している。担当を決め、定期的に本物の花や植物を置いている。歌謡曲のBGMをながしている。	天窓のある天井は高く、四季折々の自然が目に見える環境である。広さ十分の居間には仙台七夕に出展する入居者手作りの短冊が飾られ、落ち着いた中に“個性と意欲”も顔を覗かせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファークーナーを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自由に持参してもらい、仏壇を置いている方もいる。	和室・洋室、布団・ベッドと画一化されておらず、持込み家具や飾り付けも個性的で、十分な広さから居心地良さが感じられた。トイレや洗面コーナーの整理整頓と掃除も行き届き、清潔であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス等は倒壊防止の措置を講じている。自分の部屋が分からなくなる利用者には、個人用の案内用掲示物を廊下に貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人 共和会		
事業所名	広瀬の郷 ゆうゆうユニット		
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	平成26年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

屋内にいながら常に四季を感じられる開放感が自慢です。全居室にエアコン、トイレ、洗面化粧台、大容量の収納スペース、また万が一に備えスプリンクラーを完備し、年中快適安全に過ごして頂けます。多くの時間を共に過ごす共用ホールは広く天井が高く、冬は床暖房でとても快適です。ご面会は応接コーナーもご用意しております。  
当法人は同じ敷地にいくつかの事業所があり、交流と散歩に力を入れております。認知症状はその人の個性ととらえ、出番と選択の機会を大切に、笑い声の絶えない雰囲気を目指しております。お気軽にご見学下さいませよう、お待ちしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年7月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「広瀬の郷」は、特養に加えて在宅系サービスを提供する法人が運営している。広瀬地区住民の高齢者福祉の拠り所となっており、多くの町内会・民生委員・教育施設・地域行事等と深く関わりあっている。ホームの職員は事業所理念の徹底、身体拘束せず各々の尊厳と自立化を支援するケアに向けて意識が高い。都市部の施設と比較すれば交通の不便さは免れないが、豊かな自然に恵まれ、設備が整った居住スペースや提携出来る事業所群の集中は大きな魅力であり、入居者とその家族等とのコミュニケーションを深めて活力ある運営を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 広瀬の郷)「ユニット名 ゆうゆう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年も全職員で振り返りを行い、変更か維持かを検討した。新任職員にはそのユニットの責任者が説明している。理念は目立つ場所に掲示している。	今年3月の職員会議で理念を話し合い、昨年どおりと決めた。また職員も個々に目標を掲げて名前入りで居間に掲示し、入居者・家族に分かる形で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣学校の行事参加。ボランティア、床やの来訪、障害者施設へ訪問。隣接事業所にボランティア来訪時に参加。運営推進会議の委員と昼食会、避難訓練を実施。施設の祭りに招待。	特養ホームを核に在宅系サービスを提供する事業所が揃っていることもあり、近隣住民・学童・幼児・ボランティア等と施設行事・避難訓練・慰問等多彩なつきあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々と勉強会や事例報告を実施している。昼食会を通して、利用者や職員の対応を見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要望や意見が聞かれた際は、再考し取り入れるように努めている。	町内会長7名・民生委員4名・地域包括職員の構成で、昨年度は4月中止で年5回開催し、出席率も高い。しかし目標に掲げた家族の参加をお願いしたが断われ、実現していない。	家族の会議参加を目標に掲げたが、必要性への疑問や日程が合わない等で未遂となっており、テーマ設定・他行事と絡める等更に工夫することで家族の参加実現を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要その都度の相談のみになっている。	市の企画する研修会等に出席している。各種相談等は地域包括支援センターと対応することが多く、この1～2年、市・区の担当者へ相談するケースはなく推移している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が中心となって定期的に内部研修を実施している。他の職員も外部研修に参加し、伝達研修を実施している。玄関も日中は施錠せず、センサーで対応している。	研修でのテーマ設定、入居者・外出傾向のある方への目配り等、事業所・職員は身体拘束とならないケア実践に取り組んでいる。また運営推進会議でも本テーマを説明するなど、外部への広がりにも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施している。外部研修に参加し、伝達研修を実施している。特に言葉遣いは乱れやすいため、お互いに指摘し合う雰囲気づくりを目指している。入浴時に痣の有無を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が中心となって定期的に内部研修を実施しているが活用実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に際して管理者が説明し、いったん家族に書類を持ち帰って確認してもらい、その上でもう一度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに意見箱を設置し、匿名性にも配慮している。相談機関や施設の取り扱い方法について玄関に掲示している。	入居の際に月一回は家族訪問をお願いしており、家族の訪問は少なくない。しかし家族会組織がないためか運営への要望は少なく、職員を経由して汲み上げられる形となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に決まった話し合いの場はないが、内容によっては管理者が意見を集約し話し合いを行っている。	月初めに2時間程度の職員検討会を行って円滑に運営する仕組みであり、その他日勤者・夜勤者の引き継ぎや管理者への報告・相談等で汲み取る形となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度のもと、法人全体で一体的に運用されている。半年に1回面談を実施し、振り返りと今後の目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の内部に取り組んでいる。外部研修は参加した職員が必ず伝達研修している。法人合同での研修も年2回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年西部地区の施設が集まりスポーツ大会、懇親会が実施されている。他施設との交換研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、入所先の計画作成担当者が中心になり構築されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、入所先の計画作成担当者が中心になり構築されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、事務長、看護師、栄養士も加わり、より専門的な意見のもと検討している。昨年デイサービスを定期的にご利用していた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において、利用者ごとの役割や出番が確保されるよう、検討会を行っている。写真として家族に毎月送付している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や帰省、行事参加を呼びかけている。毎月1回生活の様子を記載した手紙を送り、本人の思いを伝えたり、代弁している。面会時間においても、基本的に制限を設けず対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙等可能な限り継続してもらえるよう行っていきたい。隣接している特養に夫が入所しており、定期的に会いに行っている。地域の利用者の友人がたまに会いに来る。	法人は特養ホームを軸に在宅系サービスが揃った広瀬地区高齢者福祉の中核的役割を担っており、慰問ボランティア・教育施設との交流・地域行事参加等馴染みの人・場との関係継続支援が確立している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席位置の見直し、必要に応じて職員が間を取り持ったりしている。ユニット間の行き来も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特養に移った利用者に会いにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや観察の他に、毎月1回検討会を行い、ケアプランへの反映と情報共有に努めている。また、計画作成担当者は家族面会時に対面での話し合いを行い、意思疎通に努めている。	日常の関わりの中から、本人の希望に応じて雑誌・新聞・ビデオなど興味の持てるものを引出し、個別ケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も家族から本人に関する様々なことを聞くようにし、その情報を全職員が共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン以外にも、独自の内部研修会を通して、定期的に検討会を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員間で検討会を行っている。また、計画作成担当者は面会時に必ず対面での話し合いを持ち、情報共有に努めている。	月初めに行っている職員検討会を実施し、本人・家族への聞き取りとモニタリングを行っている。3ヵ月毎に介護計画を見直し、対面もしくは書面で家族の合意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各介護記録、必要に応じて専用ノートに記載し、日勤帯と夜勤者間で引継ぎし合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は外部デイサービスを利用していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館、ボランティアの来訪、近隣施設への訪問を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院の希望を確認している。施設のかかりつけ病院の場合は、定期、随時外来と施設の送迎で受診している。	通院には職員が付き添い、薬を届けてくれるメリットもあって入居者は施設と提携のかかりつけ医を受診している。また眼科・泌尿器科等の専門医受診の同行は家族がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師、係りつけ病院、薬局と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心になって行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が施設の方針を説明してから入所していただいている。また、介護の重度化が進んできた際も説明し、ご家族の意向を確認してる。	医療連携が困難な地域事情もあり、「終末期ケアは病院か特養が担う」と入居者家族に説明し理解を得ている。しかし地域密着ケア重視の動きや家族要望の変化も勘案して法人内検討を深めることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画のもと定期的な内部研修を実践している。今年AEDを設置し研修も行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施し、うち1回は消防署立会いで行っている。他に、ご利用者の誘導のみを省いた確認訓練(導線や誘導方法の確認等)を実施。地域住民の方も参加している。	近隣住民への周知と参加案内も行って4~5人の住民参加が得られ、夜間対応避難訓練を実施している。特徴として隣接の特養スタッフとの連携を入れた、実践的な計画になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々職員相互で注意し合う雰囲気づくりに努めている。定期的に会議の場でも取り上げている。	苗字呼びとせず名前呼びにして受け入れられ定着している。誇りやプライバシー保護のため職員同士の会話でも名指しはしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションに注意すると共に、ケアプラン、独自の内部研修会を通して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン以外にも、独自の内部研修会を通して取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出し入れ、選びやすいように整頓し、祭りや敬老会、誕生会等は、積極的に化粧や服装の支援を行っている。パーマや毛染めの希望を聞き行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食の聞き取り、買い物同行、調理や盛り付け、配膳下膳、飾り付けの工夫と、普段と違った雰囲気になるように実践している。1人が就寝時にノンアルコールビールを飲用。	朝食とご飯炊きは職員が行い、他は特養の厨房で作る形にした結果、入居者と接する時間が増えサービスが向上した。外食やおやつ手作り等食事を楽しみを創るよう工夫を重ねている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が毎日の献立を決め、代替え品や補食等も相談しながら提供している。また、食事に関する細やかな申し送り等は、担当者を決め毎月掲示している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には必ず全利用者の口腔ケア、義歯洗浄を行っている。場合によっては専用液とガーゼで口腔洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過剰介護にならないように毎月検討会を行っている。排泄用品においても失禁程度に合わせたものを決め、排泄チェックも細かく行っている。排泄に関する細やかな申し送り等の把握は担当を決めている。	排泄パターンに添った最適の自立支援に努めている。入居者の半分は誘導することで失敗は殆どない。就寝帯のトイレ誘導か安眠優先かは本人の状況を考えて選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、医師と相談し本人に合った下剤を使用。水分、食事摂取量、排便有無を記入し、繊維質の多いおやつを提供、散歩にも力を入れている。下剤は最終手段になるように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者に対しては、その希望通りに対応している。逆に入浴したくない利用者にも、週2回以上入るように援助している。音楽やラジオを聞きながら入浴することもある。	本人の希望に応えることにしているが、入浴を嫌う傾向が強く、最低でも週2回は入浴するよう支援している。お湯は入浴の都度入れ替え、足湯マッサージも加えて入浴に楽しみを作る様努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に合わせて支援を行っており、昼夜逆転傾向にある方には、日中は活動してもらえるようにしている。低反発マットも選択している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとにファイリングし、名称、用量、副作用等いつでも確認できる。誤薬防止に毎朝二重チェックを実施し、誤薬の際には薬局に昼夜相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、趣味や役割の支援、日々の余暇活動等ケアプランに反映している。定期的に検討の場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞いたり家族に参加を促したりして、機会を多く持てるように努めている。リフト付きの車も購入した。	リフト付き車両を増配備したことで春頃は外出機会が多かったが、職員の病気休職で夏場は減っている。休職職員の復帰を待つて外出する機会を増やしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する方には、ご家族了承のもと所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、投函の代行を行っていたが、現在は日課となっている方はいない。1人携帯電話を持ち家族と話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃、季節ごとの掲示物の制作を利用者と一緒に行っている。冷、暖房は温度計、湿度計で判断し、全居室に加湿器も用意している。担当を決め、定期的に本物の花や植物を置いている。歌謡曲のBGMをながしている。	天窓のある天井は高く、四季折々の自然が目に見える環境である。広さ十分の居間には仙台七夕に出展する入居者手作りの短冊が飾られ、落ち着いた中に“個性と意欲”も顔を覗かせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファークーナーを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自由に持参してもらい、仏壇を置いている方もいる。	和室・洋室、布団・ベッドと画一化されておらず、持込み家具や飾り付けも個性的で、十分な広さから居心地良さが感じられた。トイレや洗面コーナーの整理整頓と掃除も行き届き、清潔であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス等は倒壊防止の措置を講じている。自分の部屋が分からなくなる利用者には、個人用の案内用掲示物を廊下に貼っている。		